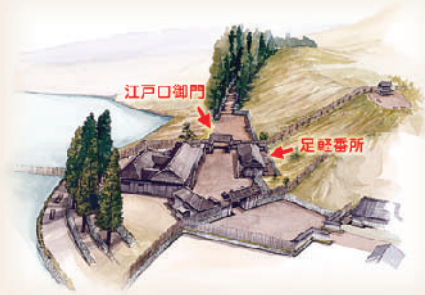




足軽番所や江戸口御門の復元が完成!!



平成17年度に復元工事を進めていた足軽番所や江戸口御門が完成しました。これで、平成13年度から実施していた箱根関所の建物の復元がほぼ完成したことになります。平成18年度には、残る外屋番所などの復元を行い、いよいよ平成19年春に全面公開されます。

足軽番所は、現在公開されている大番所・上番休息所の反対側にあります。この足軽番所は約15×9mの大きさで、平屋建の建物でした。屋根は入母屋で、大番所・上番休息所と同じようにトチ葺きでした。外壁は、柿の渋と松の煤を混ぜた渋墨で黒く塗られていました。内部には、昼間は足軽が控えていたり、夜は足軽が寝ていた畳敷の部屋や土間の他、関所破りをした罪人などを留め置く獄屋がありました。



足軽番所

また、道をまたいでそびえ立つ江戸口御門は、京口御門の対面側にあります。大きさは京口御門と同じで、約5.3mの高さがあり、屋根は切妻のトチ葺きでした。



江戸口御門

明けの六ッ時(午前6時頃)に開門し、暮れの六ッ時(午後6時頃)に閉門しました。江戸口と京口の御門が開いている時にしか、旅人は箱根関所を通ることはできませんでした。



<http://www.hakonesekisho.jp>

ホームページをご覧ください

箱根関所の復元整備工事に関わる情報をホームページで公開しています。復元が完成し公開している大番所・上番休息所などの建物の見所案内や、復元整備工事に関わる技術、箱根関所のエピソード、復元工事の進捗状況など、箱根関所についての情報が満載です。ホームページをぜひご覧ください。



木柵や石垣などの復元も完成!

京口千人溜りの芦ノ湖側では、京口御門から続く石垣や千人溜りの土留めの石垣を復元したり、土塁や木柵を復元しました。また、江戸口御門に続く木柵なども復元しました。京口千人溜りの石垣は崩れていた部分を修理したり、無くなっていた部分を復元しました。木柵は、角柵と丸太柵とがあります。角柵は柱の太さが14cm角、高さは2.1mでした。丸太柵は柱の太さが直径9~12cm、高さは同じく2.1mあり、先端は尖っていました。ともに、渋墨で黒く塗られていました。

また、足軽番所の裏側にあった雪隠や横手にあった遠見番所へと通じる通路の通路門を復元しました。雪隠は約3×1.5mの大きさで、屋根は切妻、外壁は渋墨で黒く塗られていました。便壺は2穴ありました。通路門は間口が約2.0m、高さが約2.1mあり、やはり渋墨で黒く塗られていました。



京口千人溜り木柵、石垣



遠見番所へと通じる通路門



足軽番所雪隠

^{とつな}外繋ぎは足軽番所と京口御門の間にあり、馬を繋ぎ止めるために頑丈な太い柱と桁を組んだもので、二疋建て、約3.9×2.7mの大きさでした。

京口御門を通った植木

箱根関所では、人だけではなく、象などの動物やさまざまなものが通過しました。ここで、ご紹介するものは、その中の一つ、大きな「植木」です。ある時、箱根関所の御門を通過するのに、片方の御門は無事に通すことができましたが、片方の御門では、斜めにしてもつかえて通すことができなくなってしまいました。そこで、仕方がなく、御門の下を掘って、ようやく植木を通すことができました。御門の間口は、それぞれ高さ3.6m×幅4.1mもありましたが、それでもそこを通らない植木とはいかに大きなものだったのでしょうか。



関所小咄



外繋ぎ

箱根町教育委員会生涯学習課
箱根関所整備事業推進室
TEL 0460-5-7601
<http://www.hakonesekisho.jp>